～市長が語る～「わがまちの今・これから」主な質疑応答の要旨

日　時：平成２９年５月１３日（土）１４:００～１５：２０
場　所：根形公民館　視聴覚室
出席者：市長、副市長、企画財政部長、企画課長、財政課長
　　秘書広報課長　他
参加者：４３名（男性３４名・女性９名）

【市長説明項目】
第１部　わがまちの「今」
第２部　わがまちの「これから」

【主な質疑応答の要旨】
参加者：ゆりの里の売り場を拡張するとのことですが、現在の出荷状況はどのような状況ですか。

市長：ゆりの里の出荷者協議会には約４３０軒が加入しており、そのうちの約６０％が袖ケ浦市の方です。また、平成２７年度の実績では、レジ通過者数が３２万８千人、売上額は５億５千万円で、その売上額のうち、市内の農畜産物の割合は、４６．９％と、約半分が袖ケ浦市内の農畜産物という状況です。果物や時期物野菜など、市内で生産が難しいものについては他の地域から仕入れますが、袖ケ浦市産の仕入れを最優先とし、第二優先を木更津市や市原市といった近隣市から、第三優先を県内からという順で仕入れるようお願いしているところです。

参加者：新しいまちづくりについてですが、視覚障害を持つ方へ対応するための点字ブロックの設置や、車いす利用者への段差の解消といったバリアフリー化、聴覚障害者へのテロップ設置といった設備について、市ではどのように考えて進めているのでしょうか。健常者だけでまちづくりを進めるのではなく、高齢者や障害者の意見も取り入れて進めてください。

市長：意見としてお伺いします。

災害時の情報伝達手段の一つとして、長浦駅・袖ケ浦駅の両駅に市政情報モニターというモニター画面を設置しています。市でお知らせをしたい情報を、音声だけでなく、文字や映像でお知らせをするもので、災害時にも緊急情報を表示するといった情報伝達への備えをしています。

点字ブロックの設置場所の詳細は、のちほどご連絡します。

参加者：オルカ鴨川ＦＣの試合を袖ケ浦市で行うとのことですが、どのような経緯があったのですか。

市長：オルカ鴨川ＦＣは、亀田総合病院を中心に結成されたチームですが、結成後すぐに３部リーグから２部に昇格し、現在は１部昇格を目指す力のあるチームです。鴨川では、試合をしても集客数が少ないため、他の地での開催を検討しており、施設的にも良い設備があること、また、交通利便性が高く地理的に好条件であることから、本市の総合グラウンドで開催したいとの希望があり実現したものです。

今年度、総合グラウンドでは２回の試合を行う予定で、良ければ、来年度以降、回数を増やすことを検討しています。継続的な開催には、トイレや機械室等の設備改修が必要になりますが、市民がプロの試合を観戦する機会の提供や、松木さんの子どもたちへのサッカー教室開催など、「する」「観る」「支える」スポーツにつながると考えています。皆様もぜひ観戦にお越しください。

参加者：公民館で講座を開催していますが、高齢者が講座をやめてしまうことが多くあります。理由を聞くと、自転車で公民館に来るには、途中の坂道が辛いからということです。何か対策を考えてください。

市長：新たに総合計画を策定しますが、策定にあたっては、高齢化における課題やその対策を考える必要があると認識しています。しかし、根形地区一帯に路線バスを整備するのは困難ですので、老人福祉会館や公民館、学校や集会所といった別の施設で開催するなど、開催場所の工夫もしていただきたいと思います。